

高等学校「地理B」での「地域課題を考察させるための授業」での活用事例

群馬県立藤岡中央高等学校

地理教員 田中隆志

概要

高等学校の旧課程「地理B」での「地域課題を考察させるための授業」では、老年人口率が日本一の群馬県南牧村を題材として、地域の課題を考察させる授業を行い、その教材・資料を作成する際の基礎データとして、国土数値情報を活用しました。私の個人運営のサイト「GEOLINK (<https://geolink.jp>)」では、授業で使用したWeb地図を公開しています。

使用したデータの一部

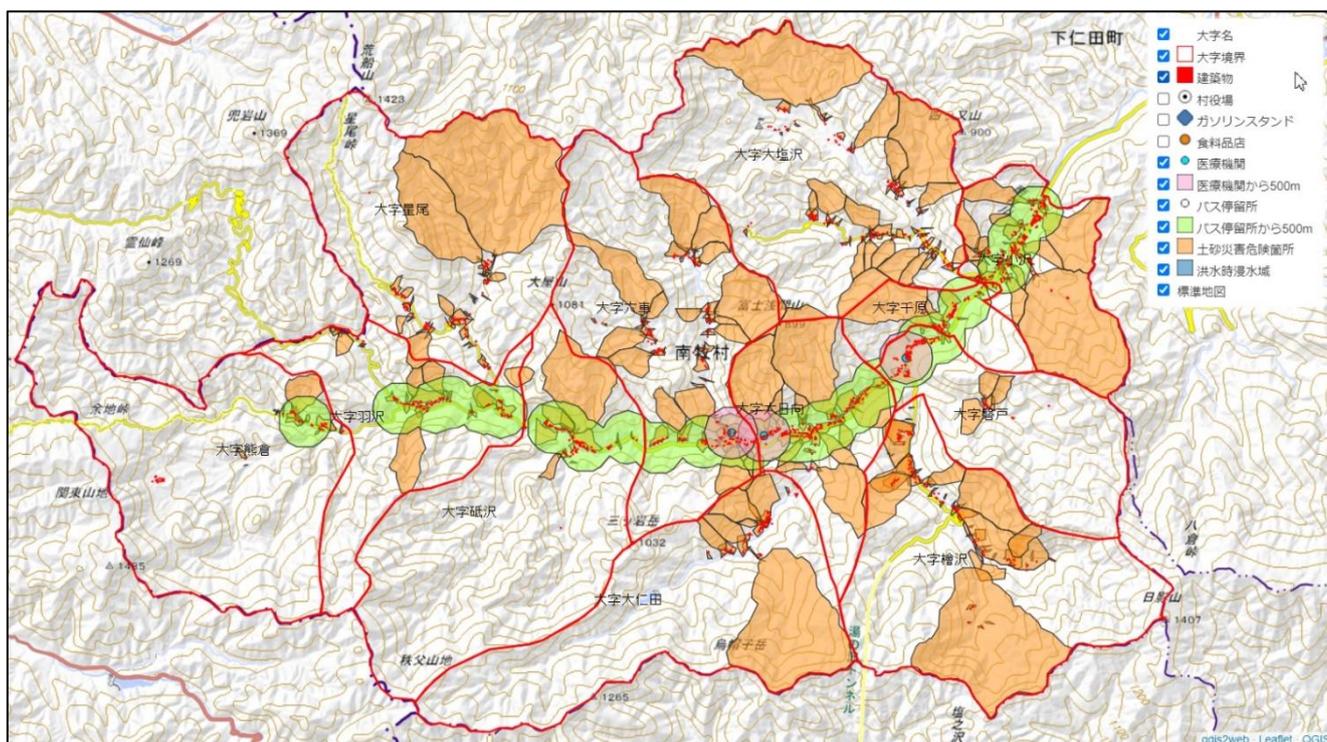
行政区域	市区町村役場	医療施設
バス停留所(ポイント)		洪水浸水想定区域
土砂災害危険箇所		



考察対象とした南牧村(2015年田中が撮影)

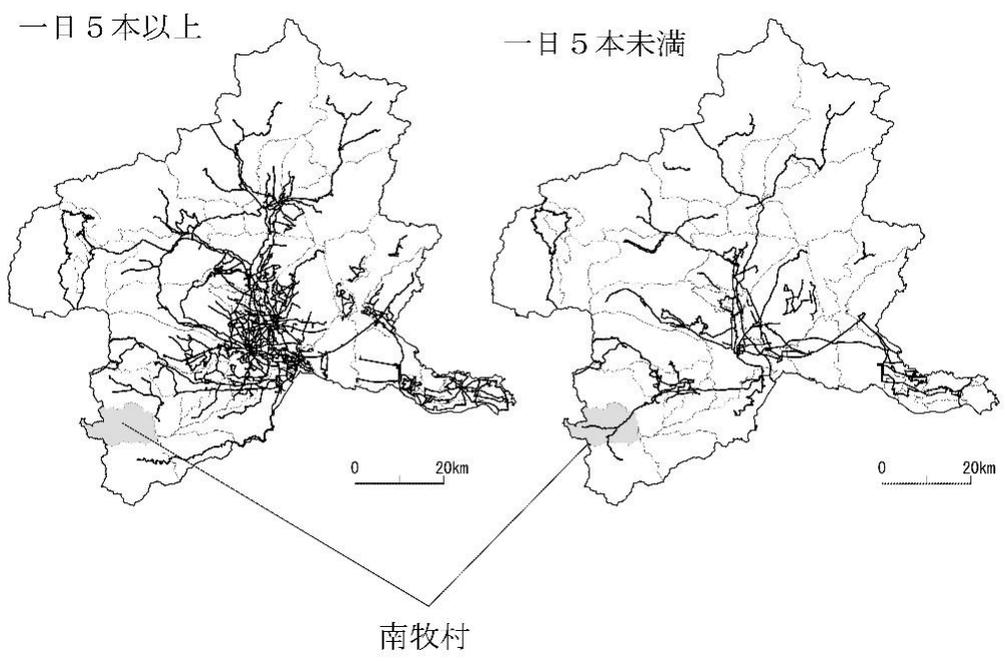


授業のイメージ



2019年「地理B」の授業で、市町村別高齢化率が日本一の群馬県南牧村の地域課題を考察させるために作成したWeb地図の一つです。授業ではこの教材以外にも、村内の老年人口率や人口の分布図をWeb地図で見せたり、ビデオ映像を見せるなどして、地域のかかえる課題とそれに対する対応を「生活」「自然環境」「自然災害」「伝統文化」の4つの側面について生徒に考察させました。とくにこのweb地図からは多くの集落が、村役場、ガソリンスタンド(燃料補給所)、医療施設、食品店、バス停などから離れ、さまざまなサービスへのアクセスが困難であること。土砂災害危険箇所になっている所が多く、土砂災害が発生したときに道路が封鎖され、多くの集落が孤立するリスクがあることなどを読み取らせました。

https://geolink.jp/web/qgis2web_2020_03_20-19_16_56_476166/00008.html



平日の一日当たりのバスの運行本数の平均値 (2010年7月)

<p>生活</p> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スーパーが遠い ・近くに病院がない ・人が少ない ・車がないと生活できない ・役場が遠い ・移動販売車がないと生活できない ・斜面が多くて大変 ・家と家が離れている ・移動手段が少ない ・移動が難しい ・狭い道が多い 		<p>対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政府に支援を呼びかける ・若い人に移住してもらう ・地域おこし協力隊の活用 ・移住者に資金や住まいを提供 ・インターネットで現状を訴える ・学費を下げ若く人を増やす 	
<p>自然環境</p> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林が荒れ放題 (緑の砂漠) ・植林で草が生えない針葉樹が多い ・山の中が雑木林みたい 		<p>対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦後植林された森林の間伐を呼びかける ・木を伐る人が足りないからまずは人材育成をするべき 	
<p>自然災害</p> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時の避難が大変 ・高齢者が多く避難に時間がかかる ・道が狭く救急車両が来られない ・災害復旧が若者がいなので遅い ・落石、土砂災害の危険がある ・土砂がずれで孤立する危険がある ・山がくずれると木が川に流れる ・避難場所までいくのに大変 		<p>対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害が起きたら早めの避難 ・定期的に避難訓練をする ・道路を拡張する 	
<p>伝統文化</p> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者が少なくて伝承できない ・祭がボランティアで成り立つ ・伝統文化を受け継ぐ人がいない ・お祭りに参加する人が少ない ・子供が全然いなくて継承されない 		<p>対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者を増やす ・外部から人を取り込む ・南牧村のインスタ開設 ・インターネットで現状を発信 ・SNSで南牧の文化を発信する ・都市の人と連携を図る ・地域おこし協力隊を活用する 	

地理B「地域課題を考察させるための授業」での生徒の考察まとめ(2019年11月)

効果・評価

地域課題を考察させる授業を、国土数値情報によって作成された地図教材とWeb地図を軸に進めたことで、生徒たちにその考察や課題の解決についての構想を、リアルに考えさせることができました。